

平成14～16年度 教育研究業績書

奈良大学在職期間	1999年	～	現在	氏名 東野 治之
最終学歴	大阪市立大学大学院 文学研究科 修士課程 修了			
取得学位	東京大学博士（文学）（論文博第11206号）			
所属学会	史学会 木簡学会 美術史学会 和漢比較文学会 続日本紀研究会 大 阪歴史学会 万葉学会 東方学会 日本医史学会			
専門分野	日本古代文化史			
研究課題	木簡・金石文等の古代文字史料 東アジア交流史 奈良古代寺院史			
<p>【研究上の特記事項】</p> <p>東京国立博物館の客員研究員として、同館所蔵の法隆寺献納宝物の調査に従事。</p>				
<p>【教育上の特記事項】</p>				
<p>【社会的活動】（主要なもの）</p> <p>東京国立博物館客員研究員 奈良県文化財保護審議会委員 財団法人 山口文化会館 （滴翠美術館）理事 木簡学会監事</p>				
<p>【学内活動】（学内職歴を含む・主要なもの）</p> <p>図書館長 通信教育部部長</p>				

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(著書)</p> <p>古代多胡碑と東アジア</p>	共著	平成17年2月	山川出版社	<p>数少ない古代の石碑の一つ、多胡碑について、日本史・中国史・書道史・考古学など諸分野の研究者による論考を集め、その意義を明らかにした。佐藤信氏と共編。</p>
<p>(学術論文)</p> <p>近年出土の飛鳥京と韓国の木簡 上代語上代文学との関わりから</p> <p>上代寺院の金堂とその堂内構成</p> <p>日唐交流と聖徳太子信仰 慧思後身説をめぐって</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p>	<p>平成15年1月</p> <p>平成15年3月</p> <p>平成16年3月</p>	<p>古事記年報45号</p> <p>日本上代における仏像の荘厳 科学研究費補助金研究成果報告書</p> <p>東と西の文化交流</p>	<p>明日香村の苑池遺構から出た書状木簡の読みを確定し、古代史及び国語史上の意義を論じた。</p> <p>7～8世紀の寺院に関して、文献史料と遺跡の両面から、主要堂宇の内部構成の変遷を跡付けた。</p> <p>聖徳太子を梁の高僧慧思の生まれ変わりとする伝承が、八世紀始めの入唐僧道慈によって導入された可能性を論じた。</p>

古代金石文と『耳比磨利帖』	単著	平成16年3月	文化財学報22集	古代金石文を拓図で収録した江戸中期の法帖について、内容を分析し、史料価値を明らかにした。
墳墓と墓誌の日唐比較	単著	平成16年4月	古墳から奈良時代墳墓へ	日唐の墳墓と墓誌を、内容・外形について比較し、日本に影響した要素と反映しなかった要素を明らかにした。
多胡碑再考-模造碑並びに書風をめぐって	単著	平成17年2月	古代多胡碑と東アジア	多胡碑の模造が江戸中期から始まっていたこと、書風は従来言われていた六朝風ではなく唐風であることを論じた。
法隆寺資財帳は完本か	単著	平成17年2月	聖徳183号	法隆寺資財帳には菩薩・天部の項に脱落があり、金堂の四天王などはそこに登載されていたことを解明した。
鑑真和上と東大寺戒壇院	単著	平成17年3月	戒律文化3号	鑑真の来日を契機に造営された東大寺戒壇院の様相を、鑑真請来の道宣の著作から復元した。
(その他)				